伊那弥生ケ丘高等学校
校長通信 ～知徳兼ねつつ たくましく～
第 14 号
令和7年 11 月 14 日

紅葉の季節・・・学校を彩るグラデーション

立冬を過ぎ、朝夕の寒さが身に染みる季節になってきました。「二季」とも言われる昨今ですが、四季の変化を感じる光景が学校の中にはあります。

シンボルのイチョウ並木

正門を入って左右６本ずつのイチョウは、本校の前身である伊那高等女学校の３代校長八木貞助先生が、1925 年に植栽され、今年で樹齢 100 年になります。銀杏の実はほぼ落ちてしまいましたが、鮮やかな緑色だった葉が黄緑色から黄色へと変わり、日に日に葉を散らしていきます。落葉は黄金色の絨毯のようになりますが、落葉を毎日掃いてくださる職員の方にはご苦労をいただいています。

グラデーションの競演

校舎の正面には、イチョウ並木の隣にサワラの大木があり、尖った緑の葉先にオレンジ色が混じり始めています。ドウダンツツジは、緑、オレンジ、茶、赤とその中間色が無数の色合いを構成しています。中庭に足を運ぶと、ハウチワカエデが黄緑色から明るい赤色に変わる最中で、対角線上にはイロハモミジが濃い赤色の一色に染まっています。一方、玄関から校舎に入ると、正面に華道部の生徒がつくった生け花が置かれ、こちらも心を和ませてくれています。

サワラ

ドウダンツツジ

ハウチワカエデ

イロハモミジ